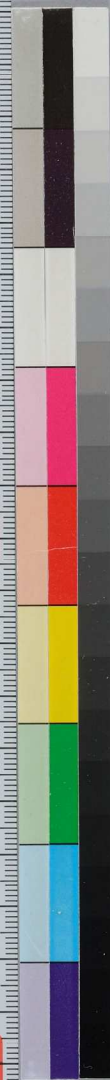


清輔奧儀抄 五



萬葉集歌

奥義抄中之下釋

一

うかりのちさゆもひとくさ
ひきやうけんまひうまひめ

松浦さひあ大伴の佐提比古うめちや
あやふけれはまはうまゆふとては舟
まろさゆとれうまゆちてさうま
のうまのうまうまうまうまゆをさ
まゆひうまうて領巾をぬきては
とまのうまのうまうまうまうま
まのうま領巾のうまうまうま肥前

わのばら花後の人れあるけのうかつと海
とやうく又三鶴五れ追和とる年云

とてはよとてあわさるるあなよひあ

ひきあはるるあなよひあ

あなよひあはるるあなよひあ

ニ へんあはるるあなよひあ

あなよひあはるるあなよひあ

兄のひく下徳四勝麻五間野の井よあはるる

トやうくあなよひあはるるあなよひあ

とてあなよひあはるるあなよひあ

千倍とる如き花咲くをてとるをえん

く相競とる花の如く入火如く氷門船の

うよ女やあはるる一生とるあなよ

一花あはるるあなよひあはるるあなよ

あなよひあはるるあなよひあ

あなよひあはるるあなよひあ

あなよひあはるるあなよひあ

あなよひあはるるあなよひあ

あなよひあはるるあなよひあ

あなよひあはるるあなよひあ

三 河のさきじりたれゆきあのゆき

ののひらやうさう 神も心

兄ハ天智天皇七年蒲生郡は遊蕩時額田

五のよあさあひの市とひひつりともう

うさうさ東照と彼野と首の家のさひた

とさうさうじりたのとあひの家のあれとさ

今日の御蔭はあをきとさうさう一軒は二軒と

稱と又一名と重畳とさうさうとあさ乃

はひ也この野はさひあひのさふともれ舞ハ

さうさうあひの行幸供奉の女は皇太子

御養子云

けりされさうさうさうさうさう

人はいふはさうさうさうさう

さうさう家のさうさうさうさうさうさう

よあされさうさうさうさうさうさうさう

わのさうさうさうさうさうさうさうさう

ああのはさうさうさうさうさうさうさう

はさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

事いふゆへにふは神年云

わふ野のあめりつ乃とくはへ

のものはるかたうとてあ

とよあつともいふれん城ともいふあつとも

んあせ

四 ちんれおと目建いふつとやとくを源

玉建城人せのそと乃とれお

集云大伴回主字伴郎くつらうん信つう

くつらう人う路とつらと隣とろのすくはる

石川女郎と云ふの玉建城ゆひけくあや

く玉建城ゆひけくあや

とく玉建城ゆひけくあや

玉建城ゆひけくあや

て玉建城ゆひけくあや

玉建城ゆひけくあや

女郎く玉建城ゆひけくあや

玉建城ゆひけくあや

玉建城ゆひけくあや

玉建城ゆひけくあや

玉建城ゆひけくあや

同云山島松をへそくぬきし事一山乃松と
海よりよみ阿も且て、海よりぬきし事
とも尾木を切かんこころまへそくぬき
ずのぬきし事とてその山よりぬきはたけ
まひぬるのと申うかふ所は公なり
答云あつわらんぬきし事もあつくいす城山乃
松をへそくぬきし事ひきりせざる古事云
ひらひきりよみし事とて山とこれ
うけんとて松をぬきし事とて

とわの、運うとわく、わの、み、あ、あ、あ、あ

[illegible]

三
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

とわも山鳥乃^り多^おうをのまてわん

うゝほのめをわさへうとあると

丁酉年九月廿五日

わも雄と乃のそ乃あ乃あと乃えと

申義也 竹石之阿里也

大
河
心
海
人
乃
能
行
足
盡
六

人海少知己

わろひととい集む朱羅しゅら引也妙みょうの兒こと
おまの社の羅らと云ふものの爲めそを
あつて人と云ふは紙にさう女と云ふはこれい
織女おりひめの奇きの集しゆ云

ひんがしのれがわけをわらひ
あそびにうきとてさへひも

七
 今更に阿彌を念ふわかれを
 見送るわかれもよろこびのわかれ

うきとく うきとく 浮物とて ちがひ 或物といふに
まといふこれら うきとく のうきとくと集ふ

[illegible]

心切阿はるまひ人々ふん
や土佐日記もさき見し

八
ひさのちんたれやうあや
とくあやうあや

もふのちやとあはれいなるにふみあへ
るこころ若し細雨とうき世俗よりこころをそ
めてぬき我々もうきもの或物といふゆゑ人
もくぬぎとぬきけりなむあらあまきとほろ

と本れは、
用ひて、
とて、
なり。

十三
はなをのちふゆれぬあれと

三ノミヤノアサギ

まゐりてくわいひくうふのよてあかり
りめくつ記さるる字そくひさるるあやむの
とせいつまなず記めくお建んを建んとゆの
いふさぬもお建とち紙さるるみりそふ
はさといあのみるち沙そとつあはばさ
き
幾ともふ又來乃あまこゆひさると海さ
けのおんも

はるみのもろのけにあま
さうみけはふけをけ

とよめのあもれもといふ歌さう歌いよと云也
とよめくはさうさうのともすめといふは集
よの朝といふさうとよめの日記にも新殿よと云
てよめあひのちやとよめの集云

[illegible]

ひまわりく集云

けしきひくうひくうくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

又くくくくくくくくくくく

同云くくくくくくくくくくく

海くくくくくくくくくくく

めくく

答云くくくくくくくくくくく

めくくくくくくくくくくく

ひくくくくくくくくくくく

とくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

拾遺云

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

五 くのくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くのくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

六 あつたつ梅のさけん事いふまゆと

うのさけひさのさけらふさけむ

あつたつ梅のさけん事いふまゆと

うのさけひさのさけらふさけむ

あつたつ梅のさけん事いふまゆと

うのさけひさのさけらふさけむ

あつたつ梅のさけん事いふまゆと

うのさけひさのさけらふさけむ

あつたつ梅のさけん事いふまゆと

うのさけひさのさけらふさけむ

あつたつ梅のさけん事いふまゆと

うのさけひさのさけらふさけむ

あつたつ梅のさけん事いふまゆと

うのさけひさのさけらふさけむ

あつたつ梅のさけん事いふまゆと

うのさけひさのさけらふさけむ

あつたつ梅のさけん事いふまゆと

うのさけひさのさけらふさけむ

あつたつ梅のさけん事いふまゆと

うのさけひさのさけらふさけむ

あははるるゆきふりかへて

こゝろもわりのうしろそとゆる

千 志れともぬされとゆけとわらふ

ゆふふのしらぬともちかき

こゝろもわりの事雄略天皇の略

一のひよあけさのあひとひとわらふ

のあひとわらふの事いよとわらふ

のと云白麻ともくわらふ

世 ことわらふの事いよとわらふ

こゝろもわりの事いよとわらふ

こゝろもわりの事いよとわらふ

こゝろもわりの事いよとわらふ

こゝろもわりの事いよとわらふ

こゝろもわりの事いよとわらふ

こゝろもわりの事いよとわらふ

世 ことわらふの事いよとわらふ

あひとわらふの事いよとわらふ

こゝろもわりの事いよとわらふ

國の女れともぬされとゆけとわらふ

あははるるゆきふりかへて

あさひのひまをきれたるうきうき

ゆふのひまをきれたるうきうき

はるのひまをきれたるうきうき

ふゆのひまをきれたるうきうき

はるのひまをきれたるうきうき

ふゆのひまをきれたるうきうき

はるのひまをきれたるうきうき

ふゆのひまをきれたるうきうき

はるのひまをきれたるうきうき

ふゆのひまをきれたるうきうき

はるのひまをきれたるうきうき

ふゆのひまをきれたるうきうき

はるのひまをきれたるうきうき

ふゆのひまをきれたるうきうき

はるのひまをきれたるうきうき

裏書 或書曰天平勝寶五年春二月於大

日橘卿之東家宴饗大吏等時主人大臣

問古歌云

安佐母牟比紀能勢伎母利家多豆加

由流湊等伎奈久安我契流伎義

即歌録云

安佐母与比記其情奈何者

式部卿

石川卿説云安佐母与比記所以

然之者古俗語俳朝炊飯謂之阿佐母与比

紀新也

五 山をみればあをさけむあつと

とてあきんびくとも

ふせむと蟬のあけなるか也み

あきんびくを思ふもあつと

ふせむと蟬のあけなるか也み

あきんびくを思ふもあつと

ふせむと蟬のあけなるか也み

あきんびくを思ふもあつと

ふせむと蟬のあけなるか也み

あきんびくを思ふもあつと

ふせむと蟬のあけなるか也み

あきんびくを思ふもあつと

ふせむと蟬のあけなるか也み

あきんびくを思ふもあつと

ふせむと蟬のあけなるか也み

あきんびくを思ふもあつと

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて同集云

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

あはれなる心はわが心なりとて

月之ゆくをせりか

又玄

わいふのうらなひを
かへておくれ

ちよとあひまゝに
 あつてゐるに
 ちよとあひまゝに
 あつてゐるに

廿七

おちちとるうみはくす

竹世に屋敷に建つてゐる

くさくさ神もこのふくこの大已貴神ハミヤ

このまゝ神へひきあはせ給ふ事也
 伊彦名神を高皇彦靈尊のみこととて
 祭る

そのまゝにまゐりてゐる。病を

[illegible]

垂のまゝとていふは

百姓の恩頼とふみぬくは

ふの^整大^{ヤマト}らんち^の乃^の神^{カミ}を^を大^{ヤマト}和^ノ國^{クニ}城^ノ上^ノ郡^ノ大^{ヤマト}三^ノ輪^ノ神^{カミ}

夏之田中記

三才圖會

とつひにさきにも記さるるに

と云平らにのぬ神れ事とらん申はる

やうふのつねはぬ又もれとあらう一節と

よびとあられ事とあらうもきつや或人云

このまのぬ神に社とてあらぬ日と事れ日

とあらうつとあらうふらふとあらうと事と

はるる神れ事とあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

ともあらうとあらうとあらうと事と

是をうもつるゆへ天石掾樟^{あまのついで}舟^{ふね}のきく
もへつ^{もへつ}はう^{はう}あらとて川^{かわ}次^{つぎ}は兼^{とも}武^ぶ鳥^{とり}さ
うめりうへる

同云、あをれうへるうへるなりと

昔云日中記より歌共とく知くものさく

とてうへる文字はうへる男女さうへ

なりとて或^{ある}中^{なか}ま^ま為^な吏^し婦^ふともうへるちや

さうへるとくはさうへるものなり

うへるうへるうへるなり

此^こいさうなりはまれうへるなり

とあさうなりはせはうへる

日中記云、あをれうへるうへるなり

神武^{かむ}天皇^{てん}の年^{とし}中^{なか}ま^まなり

うへるうへるうへるうへるうへる

てのうへるうへるうへるうへるうへる

うへるうへるうへるうへるうへる

うへるうへるうへるうへるうへる

公^{こう}老^{らう}のうへるうへるうへるうへる

うへるうへるうへるうへるうへる

國^{くに}のうへるうへるうへるうへる

[illegible][illegible]

心ちよくせん

[illegible]

三十一
やうおれも一途のまゝなやうなまゝに
うねるをうねるうねるまゝに

やうにと尾^おれ^れ乃^や矢^えの^れやうにと

[illegible][illegible]

或物^{あるもの}のせれ國の郡司^{ぐんじ}の家^{いえ}よりうへに
くろ鳥^{くろとり}やもくがと乃^{すなは}ちうへにきこふとかくを
やううへにきこふあうめとててくうへに
てくへにきこふかくすともうへにきこふとてかく
よめのとてくへにきこふとてくへにきこふとて
鳥とてくへにきこふ又鳥合^{とりあひ}之^の郡^{ぐん}とてくへに

あれ中より食飲は非常なるもの
ひるひるといふほどあるやうな
ものゝ人と云ふ集は現人と云ふ
世 神さひのようはなるもの
いふやうなものである

こゝに神社はあつたといふことは
申すに及ばぬものなりとて、
これ社なるものは和泉武部
神といふことゝいふことゝ
いふは、いふことゝいふことゝ

又源氏のあひのうへなり

いふことゝいふことゝいふことゝ
いふことゝいふことゝいふことゝ
いふことゝいふことゝいふことゝ

世 三 神さひのうへなり

いふことゝいふことゝいふことゝ
いふことゝいふことゝいふことゝ
いふことゝいふことゝいふことゝ
いふことゝいふことゝいふことゝ
いふことゝいふことゝいふことゝ

仁賢天皇の御年くこの天皇ハ履中天皇の孫市
邊押羽皇子のあへ父れ皇子雄略天皇よ、
さきよは身こえ兄弟あひまゝくわうよまゝひゆ
こゝろわや一のれははるきまひろよ雄
略天皇の子は清寧天皇とりけろみとの御時
太子よこゝへそへて皇胤りあらうとそ
て皇胤るうく人よあゝもんとそよと後つて
さてあまのりり仁賢ハ太子よこゝ兄顯宗ハ
白皇よとわろは清寧よせはるきと太子兄
顯宗は位をゆりまゝはるきと見れ太子
のすゝめよあゝひてはるき位よつとそく
わくうあひよはるきとそわく仁賢ハ位よ
やうへの顯宗天皇父居邊襲とくは百姓の
うまへとあゝ恵とくせう一記よるは
世四　　うゝゝいちうははるきと
人よあゝあゝわやううゝゝ
或物よゝゝひもは女はよゝゝとて一尺ゝ
はるきあゝゝのやうははるきとく女よ
うまゝうけひく女ハゝはるきとわうわうと

去年より和泉國の宇治わとりの雛を

[illegible]

[illegible]

此
書やうな書やうな書やうな書

ゆきあひのふゆあはれ

是年こゝろ輪義りんぎと云ふのまゝに記し置くわや
 てもうさる記れゆきあるまふとせむと
 けのこまへ吉明神の御方乃わきあふと

此年の論義ハ一巻にてもあやまのやうなる

以下六首ハ仔細物語なり

先

そのれもつねのさるへいさめち
とへぬもぬくしをさけ

は年ひじりわるやうなせをうておろそ
やめえよけつ便めえろ車は深至^{くさ}なり
いものさきこのろを車にのろく人のほろ
のともともやわびるもちなんともそ
よめくけろさぬおのれくさきそ
うかえろのろく人とさきくさきくさき

煙は如^も煙盡燈滅と云ふ支那の佛の滅^{めつ}の

とさきくさきよせえろくさきくさき
のさきくさきくさきくさきくさき
さきくさきくさきくさきくさき
かきくさきくさきくさきくさき

早 山くさきくさきくさきくさき

そのさきくさきくさきくさき

つぎは田村^{たむら}の村^{むら}に時^{とき}にみれ^{みれ}せをさきくさき
みれを安^{やす}静^{しず}なりとけくさきくさき
そのさきくさきくさきくさきくさき

とくわをとい^{ちやう}修^{きう}行^{かう}若^{じやく}とやめんとそ^{ちやう}靜^{じやう}園^{えん}増^{ぞう}
正^{ただ}ハ申^{まう}ける^{けり}こ^これ^れ人^{ひと}ハ^ハ式^{しき}部^ぶ内^{ない}侍^{しやう}の^の子^こニ

曾丹翁

[illegible]

みづのちとひともひる

まゝに御書と云はれきん乃恩徳おんとくを報むかひて
 年としのそまうきをまじりて下人しもじんのみあつち
 可よしとせしめと家いへの荷前のさき祭まつりと云書あやりも
 黄帝昇天こうりゅうてんみするものをもわの頼たのしみとう記
 よめの日記にっぴ記しるしの思頼おもたふとうきくよめの

赤深年云

八世
孝子又平此
ひそめ山守

ひのちのあまらばさめん

是は法文ほふもんにわする事也ことなり羊ひつとひくよくてぬる
 やのひきとて病やまくもあへて病やまさんととるも
 ろくひきぬくゆふあつてひくあつてとるも
 のちうけくも世中人よぢうじんよとて羊ひつ歩あひとての
 世中人よぢうじん乃すなはちあへてとるも又ひきゆくぬ
 とて世中人よぢうじんのひきとて文ぶんはあつて病やまさるるも
 るれとてひくよくてぬるもあへて病やまさんととるも

九

わがまのうしろのあつた
わがまのうしろのあつた

わがやうな

通ハ終リル人ハ女流ニシテハ其ノ中

と記すいふものと云虫のちと合葉一とふひを

よけろん
やろー
し
は
み
ち
う
ろ
う
う

うそ
か
あのち
い
の
あ
あ
あ
あ
あ
あ

ふのれき 八玄煥賢と云文のふと

一は建ハあらんとて釋一うきとヤムもは

る事ものひきよめ又女

[illegible][illegible]

毛髪を剃る

五ノハ

此乃余之草書也

可憐此子已如飛
可憐此子已如飛

又公之入力也

子如百藥云

中野の山

今更に
て家
より
も

又さぬくくくくぬえんくひく人ゆめより也
くくくくくく

追^不勸^勸守^守宮^宮新^新玄^玄焚^焚云^云以^以血^血塗^塗臍^臍女^女有^有和^和情^情
洗^洗之^之不^不落^落又^又抱^抱朴^朴子^子云^云わ^わの^のい^いは^は百^百日^日の^の回^回来^来
と^とま^まり^りせ^せる^るの^のち^ちを^をは^はけ^けつ^つ建^建い^いれ^れと^とせ^せさ
か^かま^まい^いお^おち^ちと^とい^いつ^つの^の中^中の^の洗^洗は^は古^古く^くれ^れん
は^はく^くの^の若^若玄^玄焚^焚の^の失^失歟^歟義^義も^もい^いふ^ふさ^さう
だ^だの^の和^和情^情わ^わる^る不^不落^落と^とわ^わる^るハ^ハ和^和情^情と^とわ^わる^る
や^やい^いへ^へく^くく^くと^とさ^さて^て年^年月^月と^とさ^さる^るへ^へく^くむ
く^くく^くは^はけ^けく^くく^くく^くと^とわ^わる^ると^とい^いふ^ふけ^けく^く

わ^わせ^せと^とい^いへ^へく^くく^くと^とさ^さる^る

奥義抄中終

